

子貢しこう問といて曰いわく、一言いちげんにして以もって、終身之しゅうしんこれを行おこなうべき者ものありや、子し曰のたまわく、それ恕じよか、己おのれの欲ほっせぎるところを、人ひとに施ほどこすこと勿なかれ。

これは、論語の一説ですが弟子の子貢が「一言で、死ぬまでに行うべき大切なものがありますか」と聞いたところ、「それは恕（じよ）である」と答えたそうです。恕は仁に含まれる徳で、心の上に如くと書くことから、相手の心の如くなる。相手の気持ちになって考えることを意味します。つまり「自分にして欲しくないことは、他人にはしてはならない」ということです。子供たちは色々な人と関わることで生活が成り立っています。その人と人との関わりの中で「恕」の気持ちをもち続けることはとても大切なことです。

さて、今年から道徳の教科書を使い授業を進めることになり、通知表にも一言評価をすることになっています。しかし、教科書の内容を教え込むものではありません。教科書の教材をきっかけにして友達意見を聞いて「なるほど、そういう考え方もあるのか。」と道徳の価値についてしっかり考えていく授業です。道徳の評価についても、教材の持っている道徳の価値について友達との話し合いを通して、自分の考えを広めたり深めたりしたかを評価することになります。

話は変わりますが、わたしは、大休憩と昼休憩時に、子どもたちが運動場で元気にあそぶ姿を見るのが大好きです。最近、暑いので、ミストをつけて見えています。雲底や登り棒がだんだん上手になっていく1年生や異学年の児童と一緒にボール遊びをしたり、縄跳びをしたり、一輪車で一緒に楽しくあそんでいるのを見ると優しい気持ちになれます。当然もめ事もあるのですが…

他人を思いやり大切にすることは、他人からも大切にされるとともに「恕」の気持ちがある人は、必ず素敵な人生を送ると信じています。中野上小学校の全ての子供たちがこの「恕」の気持ちをもてるように指導を続けて参ります。

校長 土井 安博